

# 佛蘭西書巡覧 31

平山 弓月

王朝の護持は、確保されたように見えた。一番驚いたのは、共和政を作るつもりだったのに、ブルジョワ的な王政を産みだした後だった。パレ・ブルボンにはパリ市廳(オテル・ド・ヴィル)に勝ったのである。

アンドレ・モロワ



前稿に続き今稿でも、ヴィクトル・ユーゴー **Victor Hugo(1802-1885)のLes Misérables(1862)** 『レ・ミゼラブル』をもう一度読みましょう。物語は1815年から1832年という、時代が激しく揺れ動いたフランスをその舞台として展開されます。前稿ではその発端となる「銀の燭台」の逸話を紹介しました。

主人公のジャン・ヴァルジャンは、悲惨な境遇に陥ったファンティーヌとの約束通り、悪辣な宿屋のテナルディエ夫婦の手から、けな気なコゼットを救いだし、この八歳の幼子を連れてパリに遁れ、隠れ住むこととなります。既に、当時からすれば老齡に差し掛かっていましたが、はじめて家族といえるものを持ち、愛する対象を得たのです。しかし彼が追われる身であることには変わりなく、偽名を使って暮らさなければなりません。

その後、新たな人物が現われます。作者ユーゴーの「現身」ともいえるマリユスで、やがてコゼットと恋仲になるこの青年は、物語の後半で中心的な役割を果たします。ナポレオン軍の大佐であった父を持ち、しかし母の死後その経歴を快く思わない裕福な外祖父に引き取られ育てられた彼は、真実を知るに至り外祖父と諍い、その庇護のもとを離れ弁護士として自立します。芳しくない暮らし向きの中、共和派の人々と親しくなってゆきます。

Elle crut qu'elle avait des racines parce qu'elle était le passé. Elle se trompait; elle faisait partie du passé, mais tout le passé c'était la France. Les racines de la société française n'étaient point dans les Bourbons, mais dans la nation. Ces obscures et vivaces racines ne constituaient point le droit d'une famille, mais l'histoire d'un peuple. Elles étaient partout, excepté sous le trône.

ブルボン家は、自分は過去であるがゆえに確固たる根を持っていると信じた。しかしそれは誤解であった。ブルボン家は過去の一部のみであって、全過去はフランス自身であった。フランス社会の根はブルボン家の中にはなくて、国民の中にあつた。その人知れぬ頑丈(かんじょう)なる根は、一王家の権利を組織するものではなくて、一民衆の歴史を組み立てるものであつ

た。その根は至る所にあつて、ただ国王の座の下にのみ欠けていたのである。(訳:豊島与志雄)

ナポレオン一世没落後の王政復古は、ブルボン王家の勘違いでしかなかったのかもしれませんが。国民の思いを理解できずにいたのです。それが1830年の「七月革命」の元凶だったのでしょ。しかしこの度の「革命」の結果も、民衆の思いを踏みにじるものでしかなかったのです。オルレアン家のルイ・フィリップが王位につきましたが、相変わらず王政になってしまったのです。共和政を望んで叛徒となり、パリケードで命を懸けた民衆の不平不満はこの革命後も一掃されなかったのです。最終的には鎮圧されてしまう、1832年6月の反乱は、共和主義者たちが立ち上がった結果だったので。ユーゴーはこの反乱を詳しく描き出しています。少年ガヴローシュの活躍や、地下水道をマリユスを背負って逃げるジャン・ヴァルジャンの有名なシーンはこの反乱の中でのこと。是非ご一読されることをお勧めします。

この稿を閉じるについて、コゼットとマリユスの「愛」のありようを描く、美しい文章を掲げておきましょう。

Pour Cosette et Marius rien n'existait plus que Marius et Cosette. L'univers autour d'eux était tombé dans un trou. Ils vivaient dans une minute d'or.

コゼットとマリユスにとっては、もはやマリユスとコゼットとのほかは何物も存在しなかった。周囲の万物はすべて穴の中に没してしまっていた。彼らは光り輝く黄金の瞬間に生きていた。(訳:豊島与志雄)

二回にわたって、駆け足でこの物語を見てきました。読み進めば「ワーテルローの戦い」「王政復古」「1832年の暴動」「下層民の暮らし」「パリの地下下水道」等々の詳細な描写に出会います。「時代」を理解するためには必要な事項ですから、疎まらず丁寧に文章を玩味して下さい。

ひらやま ゆづき(教授・フランス語・フランス文化論)